

東北大学浅虫海洋生物学
教育研究センターの研究から

第3部
1

類は棘（とげ）がたくさん生えたイガグリ型で、磯の岩の隙間で海藻などを食べて生活しています。青森の磯ではキタムラサキウニやバフンウニがよく目に付きます。しかし、イガグリ型のホンウニだけがウニではありません。今日はすしネタにもならず、イガグリ型でもないウニの仲間を紹介しましょう。

例えば、浅虫サンセットビーチや蟹田辺りの砂浜海岸の浅瀬で、濃い紫色をした、直径5センチほどのおせんべいのように平たい動物を見たことはありませんか。あれはハスノハカシパンという生き物で、カシパン類というウニの仲間。彼らはホ

ウニの仲間たち

2億年の進化の造形

ンウニ類のように長く鋭い棘は持たず、その代わり体の表面に短く細かい棘をびっしり生やしています。カシパンの体の表面を触ると、ビロードのような手触りですが、この手触りは体表に生えている短い棘のせいなのです。

ハスノハカシパンの
いる辺りの砂を注意深
く掘ると、毛のよう
に細い棘が生えた球形の
生き物が見つかること
があります。これもウ
ニの仲間で、ブンブク
類に属するオカメブン
ブク。ブンブクの棘は
細長くしなやかなので、
ホンウニ類の棘のよう
に刺さったりしませ
ん。オカメブンブクは
体全体に細い毛の生え

た手のひらサイズの縫いぐるみのようです。

平たいカシパン類と、球形のブンブク類。親の形は大きく違いませんが、幼生はよく似ています。幼生は海中で数週間から数カ月ほど浮遊生活をした後、変態して大人になります。変態直後はイガグシ型のウニと似ていま

すが、その後の成長過程で、カシパン類・ブンブク類、それぞれの特徴が現れてくるのです。

ホンウ二類、カシパン類、ブンブク類は約2億年前に原始的なウニから分かれ、それぞれの進化の歴史を始めたと考えられています。カシパン類とブンブク類はどちらも砂地での生活に適応して進化した仲間です。

夏、海水浴場に出掛けたときは、浅瀬でカシパンやブンブクを探してみてください。彼らの独特な形は、2億年という長い年月をかけ練り上げられた進化の造形作品なのです。

(准教授・美濃川拓哉)



ハスノハカシバンの親（左上）と幼生（右上）。オカメブンブクの親（左下）と幼生（右下）。長く鋭い棘は持たないが、どちらもウニの仲間たち

(准教授・美濃川拓哉)